

# ホームランを数える助数詞「本」と「発」の認知言語学的考察

鈴木一平  
(京都大学)

濱野 寛子  
(京都大学)

横森大輔  
(京都大学)

## 1. はじめに

本研究では、野球のホームランを数える際に用いられる助数詞「本」と「発」について、それぞれの使用の動機付けを認知言語学の理論的枠組みから分析した。一般的に助数詞は、それぞれ数える事物の異なる意味的側面を反映すると言われ、どの助数詞を使用するかは文脈依存的である。従来ホームランの数え方は、助数詞別に議論されてきた。しかし、「発」については、使用を動機付ける要因に関する分析は十分でなく、また、助数詞間での比較はされていないため、両者の使用の違いが明らかでない。そこで、本研究では「発」を中心に上げ、認知言語学のメタファーの議論を援用し、ホームランを数える際の両助数詞の振る舞いの違いを分析した。そして、「本」は、数える対象の形状的特徴に基づくイメージ・スキーマ変換のメタファーによって、「発」は事態の構造に基づくメタファー写像によって、各々の使用が動機付けられていることを指摘する。

## 2. 先行研究の批判的検討

助数詞「本」について、先行研究では、( )細長い( )無生物を数えると指摘されてきた。ただし、「本」で数える事物は多様で、「鉛筆」や「糸」のように形状的な特徴が明瞭なものだけでなく、「ホームラン」や「小説」のように、いわゆる抽象的で形状を判別しにくいものも含まれる。認知言語学的観点による分析では、「本」の意味は、「細長い」形状的特徴を基本とし、抽象的な意味領域へ意味拡張の現象が生じているとされてきた (cf. Lakoff 1987, Matsumoto 1993)。Lakoff(1987)は、我々の概念理解において形成されるイメージ・スキーマの議論を用い、ボールが描く軌道のイメージは、長く細いモノを数える「本」のイメージと類似性をなしていると考え、両者の間でイメージ・スキーマ変換 (image-schema transformation) が生じていると分析している。

一方、助数詞「発」に関して、飯田(1999)の分類では、( )銃類の発砲、( )弾丸、( )爆発物、さらに比喩的拡張として ( )スポーツ等における

打撃(物)を指摘している。この分類によれば、ホームランは、スポーツの試合の打撃(攻撃)について計量する「発」の用法の一例となる。ただし、飯田(1999)では、爆発物や弾丸といった字義的用法に対して、スポーツにおける比喩的拡張がなぜ生じたかという、動機付けの説明はされていない。

このように「発」に関しては、現象レベルの網羅的記述に留まっており(cf. 飯田 1999)、言語学的理論に基づいた「発」の使用の動機付けが提示されていない。従って、本研究では認知言語学的アプローチからメタファーの理論を用いて「発」の使用を中心に観察し、ホームランを数える「本」と「発」の振る舞いの違いを分析する。

## 3. 分析の理論的枠組みについて

認知言語学においてメタファーとは、基本的に、「我々がある概念領域、あるいはそれに含まれる要素の内容・形容を理解する事を目的とし、それらと類似性を持つ異なる領域、あるいは要素を引き合いにして表現する事である」と定義づけられる (cf. Lakoff and Johnson 1980, Lakoff 1987)。そして、メタファーを用いる際、一方の領域(起点領域)ともう一方の異なる領域(目標領域)との間に写像関係が成立しているとして、これを「メタファー写像」と呼ぶ。写像される主な要素は、イメージ・スキーマであると考えられている。例えば、Lakoff & Johnson(1980)によれば、*over*は、空間的な位置関係を表すイメージ・スキーマを形成しており、HAVING CONTROL IS UP というメタファーが関与する表現“*She has power over me.*”では、*over*のイメージ・スキーマは抽象的な概念領域へ写像される。先に見たイメージ・スキーマ変換はこの現象に該当する。また、概念の構造自体が写像される場合もある。例えば、ARGUMENT IS WARのメタファーが関与する表現“*Your claims are indefensible.*”では、議論(argument)に関する描写に、戦争(war)に関する表現を用いている(Lakoff & Johnson 1980)。ここでは、「議論」と「戦争」という概念領域間で、構造的に類似性が特徴付けられている。このようなメタファーの理論に基づき、我々の概念理解の

観点から「ホームラン」に対する「本」と「発」の使用の分析を試みる。

#### 4. 分析

まず、野球のプレーで「発」が用いられるのはホームランで、それ以外は容認度が極めて低い。

- (1) 3発の{ホームラン/??ヒット/??外野フライ}
- (2) 3本の{ホームラン/ヒット/外野フライ}

(1)から、「発」を用いる際は、試合で相手チームに決定的なダメージを与えるプレーかどうかという点が考慮される。一方(2)では、打球を広く数えられることから、「発」にかかる制約に対して「本」は中立的であるといえる。そして、「本」の使用の背景には、形状的特徴を反映するイメージ・スキーマが喚起されると考えられるだろう。

これを踏まえ、さらにホームランを数える「発」の使用例をみると、打球に対して「ミサイル」や「銃弾」などを連想させるものが多い。

- (3) 本塁打 3 発で一気に勝負を決めた。
- (4) 佐藤宏 3 発被弾
- (5) 巨人 内海 2 発に沈む
- (6) TMK 砲に「合計 100 発」を指令

ここから、ホームランを「発」で数える場合、「ホームラン」を、火薬を用いて弾丸を発射する「火器」と見立てるメタファーが成立しているといえるだろう。さらに他の表現を見ると、(4)ではホームランを打たれた投手の様子を「被弾」と表現し、(5)では「沈む」という表現から打たれた投手に対して、水上戦における「戦艦」や「船」等を想起させる。(6)では、ホームランを打つ選手を「大砲」と見立てている。こうした表現から、「発」が用いられる際には、同時に、野球の試合と戦争に関する我々の一般的な知識の関与が推察される。実際、野球に関する用語や表現の一部は、「戦争」のメタファーを介していると考えられる。

- (7) 右翼席に一直線に飛び込む同点弾。
  - (8) 犠牲フライで勝ち越したかに見えたが、... (略)
  - (9) 三塁を狙った一塁走者が刺殺されるなどし、... (略)
  - (10) 一回には一死一塁から二ゴロ併殺に倒れ、
  - (11) 走者をアウトにする補殺数で、... (略)
  - (12) 2 塁走者の福富が生還し、勝ち越し
- 上記の例から、「野球」と「戦争」という概念構造間でのメタファーが関与する文脈において、「ホームラン」と「火器」とのメタファー写像が

生じやすいことが示唆される<sup>1</sup>。

一方、「火器」のメタファーが生じにくい事例として(13)から(15)を挙げる。このようにホームランを成績や記録として数える場合、「発」より「本」が適切となる。これらの事例からも、「本」は中立的な数え方であることがいえる。

- (13) プロ野球記録のサヨナラ本塁打 12 本
- (14) ホームランを 35 本は打ってほしい
- (15) 100 本も打てる自分なんて想像できなかった

#### 5. おわりに

本研究では、ホームランを数える助数詞「本」と「発」の使用を動機付ける要因について、認知言語学の理論的枠組みから分析した。そして、「本」と「発」では異なるメタファーの現象によって動機付けられていることを指摘した。本研究の分析を通して、助数詞の使用には、数える対象が有する特徴のみならず、その対象が関与するイベントについての我々の一般的な知識が重要なはたらきをしているという示唆が得られた。

#### 参考文献

- 飯田朝子 (1999). 『日本語主要助数詞の意味と用法』. 東京大学大学院人文社会系研究科博士論文.
- Lakoff, George & Johnson, Mark. (1980). *Metaphors We Live By*. Chicago: The University of Chicago Press. (渡辺昇一他 訳 (1986). 『レトリックと人生』, 東京: 大修館書店.)
- Lakoff, George. (1987). *Women, Fire and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind*. Chicago: University of Chicago Press. (池上嘉彦・河上誓作 他訳 (1993). 『認知意味論』. 東京: 紀伊国屋書店.)
- Matsumoto, Yo. (1993). Japanese numeral classifiers: a study of semantic categories and lexical organization. *Linguistics*, 31. 667--713.

#### 引用文献

「ヨミダス文書館: データベース: YOMIURI ONLINE (読売新聞)」 <<http://www.yomiuri.co.jp/bunshokan/>>

<sup>1</sup> ( )では、「花火」を連想させ、「発」がエンターテインメント的な文脈で用いられていると考えられる。ここから、「発」の使用に必ずしも「戦場」のメタファーが関与するとは限らず、「発」の本質的な意味的要素は「火器」であることがいえるだろう。

( ) 秋山終演 全力プレー、夢くれた 437 発